

V 資料

平成 31 年度 杉並区「特定の課題に対する調査、意識・実態調査」に係る
 済美教育センター作成資料について（解説）

1 資料（Excel ブック）の構成

No.	シート名（Excel シート）		主な内容
1	企画	企画概要	「教科等に関する調査」教科等別・学年別の設問レベルごとの設問数
2		評定基準	「教科等に関する調査」学力段階（R1～5）の評定（判断）基準の目安
3		企画概要（意識）	「学習・生活に関するアンケート」の内容領域と質問項目の対応
4	結果	区全	調査結果の概要（杉並区全体）
5		本校	調査結果の概要（本校）、結果の考察と今後の取組（自校記入欄）
6		分布	学力分布図、学力段階
7		学年別	「教科等に関する調査」学年別・教科等別の結果詳細
8		意識	「学習・生活に関するアンケート」各領域の平均、各質問項目の肯定率等
9	分析	クロス	「教科等に関する調査」と「学習・生活に関するアンケート」クロス集計
10		経年	学力段階の経年変化考察用（今年度結果のみ入力済）
11	個人	例：国小 3～ 数小 3～ 理小 4～ 外中 2～ 意小 3～	「教科等に関する調査」 ・各児童・生徒の調査結果、各設問の解答状況 ・基礎／活用別、観点別、領域別の結果 「学習・生活に関するアンケート」 ・各児童・生徒の調査結果、各設問の回答状況 ・領域別の結果

2 平成 31 年度資料の主な変更点（前年度比）

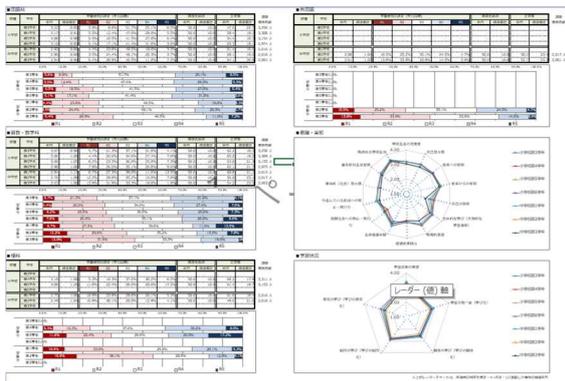
- ・ 微修正のみ

※平成 31 年度調査では、意識・実態調査に「探究の情動(内発的な学習意欲)」カテゴリを追加し、3 項目を設定しました。

3 主なシートの解説

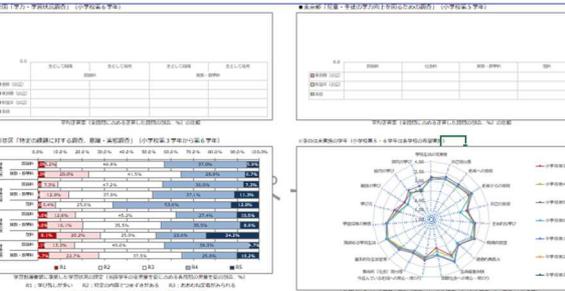
- ・ 本資料（Excel ブック）は、必ず原本（済美教育センターから送付された状態のファイル）を保存しておくようにしてください。クロス集計の動的な処理などは、行列の挿入や削除等の操作を行うことで、プログラムの一部が崩壊し、正常に処理が働かなくなる可能性があります。クロス集計などが正常に処理されなくなった場合は、原本を使用してください。
- ・ 本資料の開発環境は、windows10、Excel office365(最新バージョン)です。Excel は、2007 以前のバージョンでは、条件付き書式の一部が適切に処理されません。調査結果には影響ありませんが、Excel2010（以降）の使用を推奨します。
- ・ 本資料は、一部にマクロを使用しています。ファイルを開く際、マクロを有効にしてください。
- ・ 下記解説は、必要に応じ、別添「解説資料②」を参照しながらお読みください。

(1) No. 4 区全：調査結果の概要（杉並区全体）



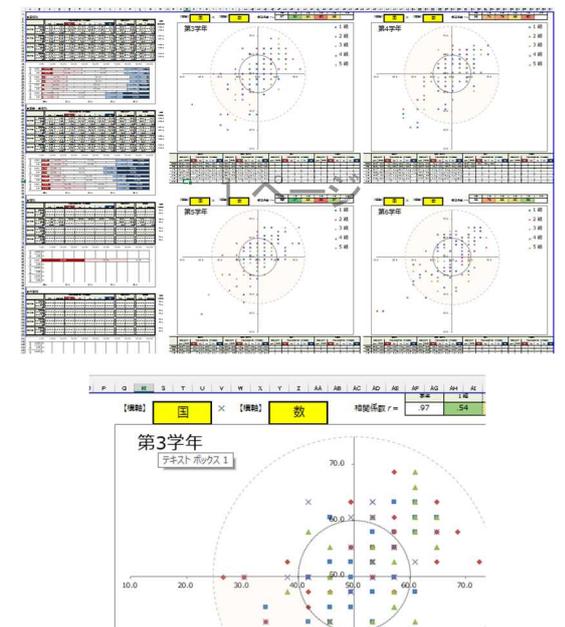
- 「教科等に関する調査」の結果を、最も重視すべき指標「**学力段階 (R1~5)**」を中心にまとめてあります。
- ※「**学力段階**」は、「調査実施の前学年における学習指導要領の実現状況」を5段階で表す指標です。詳細は、解説資料②を参照してください。
 なお、「杉並区教育ビジョン 2012 推進計画（令和元～3年度）」では、令和3年度までに、「R3：おおむね定着がみられる（最低限の到達目標）」以上の児童生徒を80%（以上）にすることを目標としています。
- 「意識・実態調査」の結果は、各領域に含まれる質問項目の「**平均値**」をレーダーチャートで示してあります。

(2) No. 5 本校：調査結果の概要（本校）、結果の考察と今後の取組（自校記入欄）



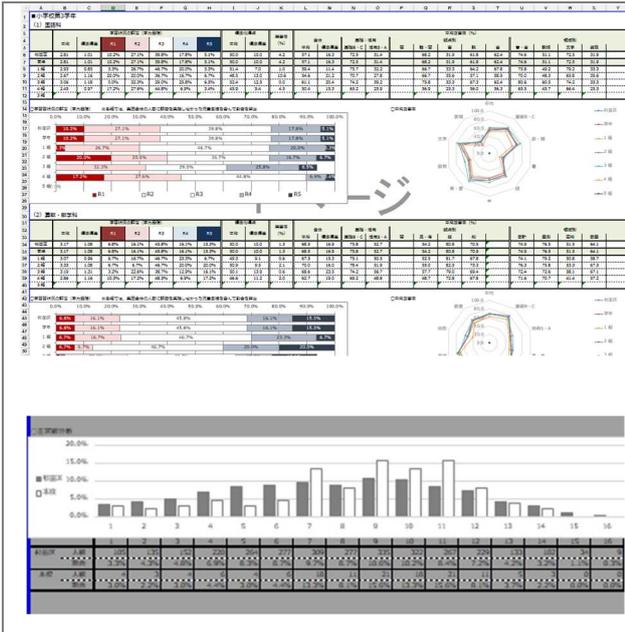
- 国や東京都の調査結果と合わせて区調査の結果を公表できるよう、グラフを中心にまとめてあります。
- ページ末には、結果の考察と今後の取組を入力する欄を設けてあります。必要に応じて御活用ください。
- ※国と都の調査は、グラフ右側ページ外の所定欄に結果を入力することでグラフに反映されます。

(3) No. 6 分布：学力分布図、学力段階



- 本校の結果を、「**学力段階 (R1~5)**」と「**学力分布 (散布図)**」を中心にまとめてあります。
- ※「**学力分布**」は、区全体の平均を50、標準偏差を10とした場合の結果（標準化得点）で処理してあります。交点が区平均=50、小円の範囲が区標準偏差=10、大円は区平均50±25の範囲を示しています。
- 「**学力分布**」は、縦軸と横軸にプロットする教科等を選択できます。**黄色く塗りつぶしてあるセル**を選択すると「指示文」が表示されます。それに従ってください。両教科等の「**相関係数**」も自動的に処理されます。

(4) No.7 学年別：「教科等に関する調査」 学年別・教科等別の結果詳細



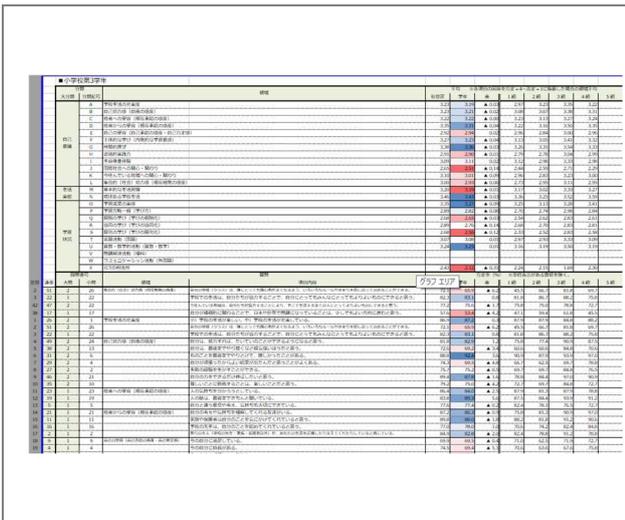
○学年別・学級別に、教科等ごとの結果の詳細を示しています。

※「100%積み上げグラフ」の合計が100%に達していない場合は、欠席等の理由から調査を実施していない児童・生徒が存在することを示しています。結果を考察する際に御留意ください。

○また、右の欄外には、(準)通過数(正答設問数)による度数分布を示してあります。

※度数分布は、平成28年度中の御要望に応じ、平成29年度に実装しました。

(5) No.8 意識：「学習・生活に関するアンケート」 各領域の平均、各質問項目の肯定率等

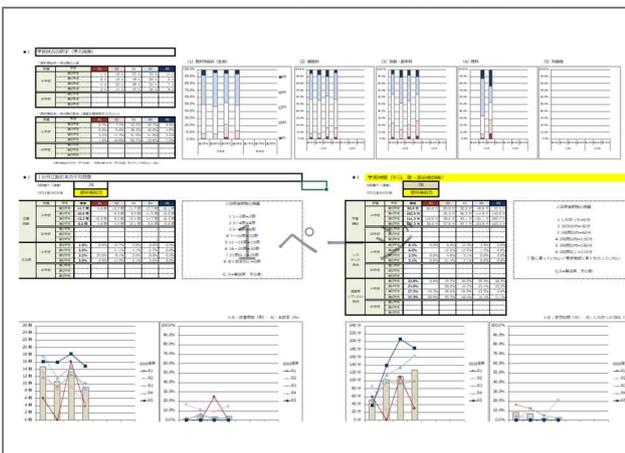


○学年別・学級別に、「領域」ごと、「質問項目」ごとの結果の詳細を示しています。「領域」ごとは「**当該領域に含まれる質問項目の平均値**」、質問項目ごとは「**肯定率(%)**」を示しています。

※「読書冊数」「学習時間」「部活動への所属状況」を除く項目は、「**4件法(肯定=4/やや肯定=3/やや否定=2/否定=1)**」での回答です。平均値は「**4点満点**」、肯定率は「**全回答に占める4と3の割合**」です。

※「**集動的(社会)効力感**」の4項目は、いずれも2領域にまたがるものとして企画しています。

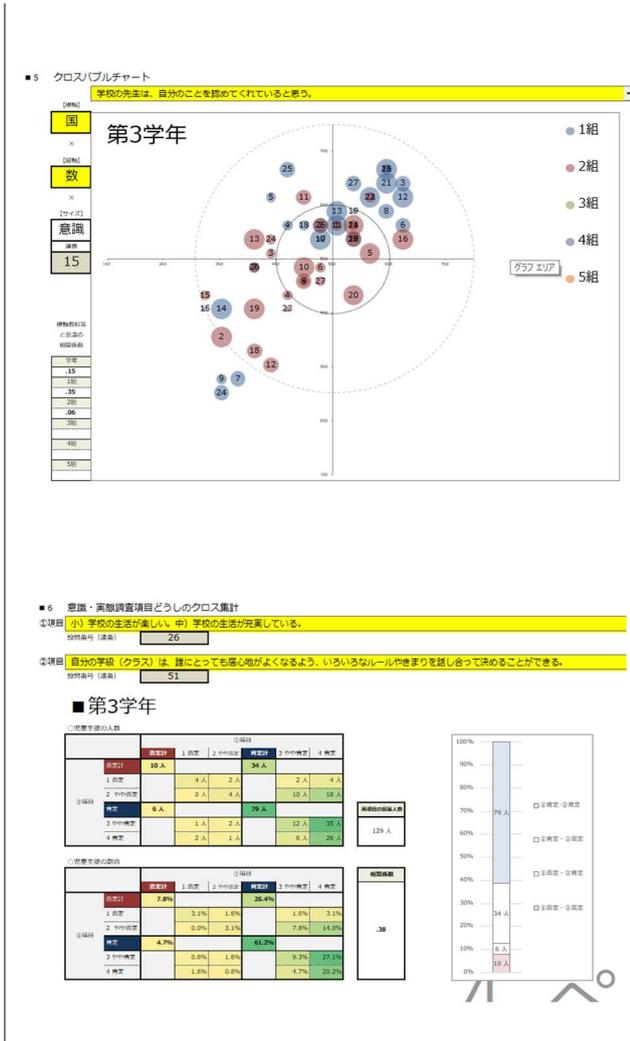
(6) No.9 クロス：「教科等に関する調査」と「学習・生活に関するアンケート」クロス集計



○「**クロス集計(クロス表、クロスバブルチャート)**」を中心にまとめています。

※「**学力段階**」の「**教科等総合**」は、「**各教科等の学力段階を平均して四捨五入したもの**」です。

○「**クロス集計**」は、動的な処理に対応しています。**黄色で塗りつぶしてあるセルや窓**を選択すると「**指示文**」又は「**選択できる質問項目の一覧**」が表示されます。



○一部の質問項目は、「クロスバブルチャート」にも対応しています。肯定的な回答をした児童・生徒ほど、バブルサイズが大きくなるように処理されます。

※Excel グラフの基本機能を使用することで、特定の学級(系列)のみを表示させることもできます。

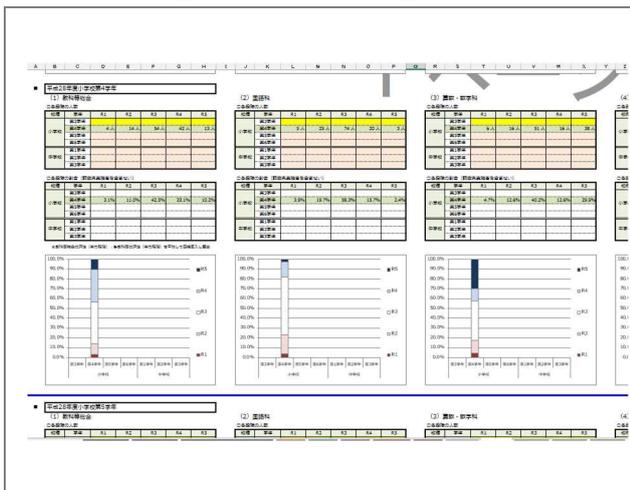
※左図は、「学校の先生は、自分のことを認めてくれると思う」という項目とクロス集計をした結果の例です。左図をみると、中下位層に否定的回答が点在している傾向がみられます。

※平成 29 年度から、平成 28 年度中の御要望に応じ、児童・生徒の出席番号が表示されるようになりました。

○クロスバブルチャート対応の質問項目は、項目同士のクロス集計をすることもできます。

※質問項目同士のクロス集計は、平成 28 年度中の御要望に応じ、平成 29 年度に実装しました。

(7) No. 10 経年：学力段階の経年変化

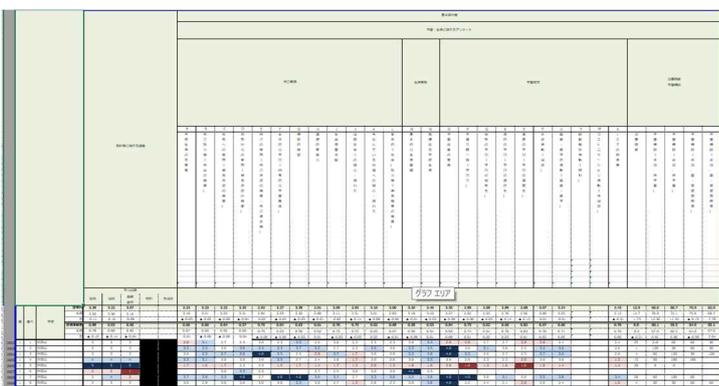
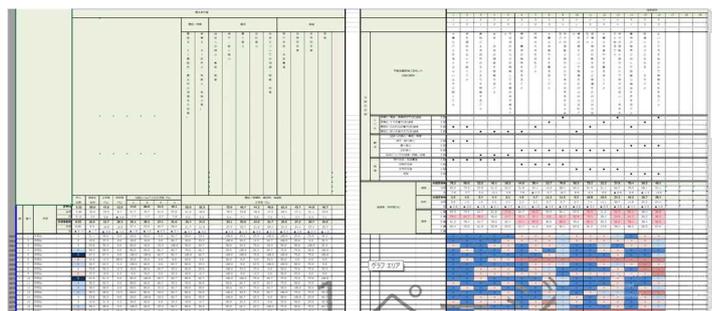


○「同個体の経年変化」を処理するために用意しました。

○今年度(平成 30 年度)の結果のみが入力されています。黄色で塗りつぶしてあるセルに昨年度までの結果(学力段階ごとの人数)を入力することにより、同個体の経年変化が考察できます。

※「学力段階」の学校への提供は、平成 24 年度から開始しています。ただし、平成 26 年度調査において、学力段階の評定基準について見直しを行っています。御留意ください。

(8) No. 11 学年別の教科等・意識



○個人ごとに、設問や質問項目ごとの「**解答・回答状況**」などを示してあります。

○設問ごとのレベル・観点・領域、質問項目ごとの該当領域など、「**企画の詳細**」についても示してあります。

○「**条件付き書式**」によって、課題点を発見しやすくしてあります。「**青はより良好**」「**赤はより課題あり**」という規則に従っています。考察の参考にしてください。

※「教科等に関する調査」は、調査実施年度の5月に、前学年の学習状況（学習指導要領の実現状況）を調査するものとして企画しています。考察の際には、調査実施年度の1学期の学習状況を踏まえるようにしてください。

※画面は全て開発中のものです。

※データは、クロスバブルチャートを除き、全てダミーを使用しています。